

ロボットコンテスト 大特集!!

剣道対決やトマト収穫競争など、変わり種ロボットコンテスト登場!
子どもから大人までが熱中し、日本の頂点を目指すロボットコンテスト。
その熱き戦いをレポート。

ロボコンマガジン ROBO CON 2015 MAGAZINE No.98

ロボットユーザ必読! 最新ボードレビュー

近藤科学「KCB-R」、インテル「Edison」/
プランネクスコミュニケーションズ「Cloud Pi」など、
話題のIoT関連ボードを紹介!

Google Lunar XPRIZEの中継観賞賞!

日本発の民間月面探査チーム「HAKUTO」
月面探査ローバーのプレフライトモデルである
デュアルローバーの「Moonraker」と「Tetris」が
中田島砂丘にてフィールド走行試験を実施!



第2回 PALRO コンテスト発表

<http://palro.jp/contest/>

2015年1月17日 AKIBA PLAZA (富士ソフト秋葉原ビル)

編集部

(アイデア部門 ①一人暮らしの方が使う PALRO)

順位	チーム名	タイトル
1位	日南伝達之助	高齢社会のコミュニケーションロボット のスタンダード、「小結」ロボット
2位	やっこ	先端障害のサポート
3位	いなり堂	PALROと共に笑い共にエキサイトす る。でも時々、勝手に笑って勝手に工 キサイトしている
特別賞	HOPE FOR TOMORROW	入れ歯管理



富士ソフト株式会社が開発・販売しているコミュニケーションロボット「PALRO」を使ったアイデアコンテストが開催され、1月17日に表彰式が行われた。今年で2回目を迎える回コンテストは、昨年9月1日～11月28日の期間、Web上で募集を行っており、アイデア部門に193件、プログラム部門に11件の計204件の応募があった。「アイデア部門」では、①「一人暮らしの方が使う PALRO」、②「商業施設で活躍する PALRO」の2つのテーマで、「プログラム部門」では、「高齢者福祉施設向けの PALRO に搭載することが可能な実際に施設で役立つアプリケーションプログラム」を募集しており、いずれも、ロボットが人間の社会でどのように役立つかという大テーマであることから、学生や主婦、高齢者の方まで幅広い年齢層の方々が応募していた。PALROについて簡単におさらいしておこう。PALRO (バルロ) は、全高約 40cm、重量約 1.6kg の二足歩行型のコミュニケーションロボットだ。自発的に会話をするコミュニケーション機能、自由な歩行・体を動かす移動・モーション機能、人の顔や声、趣味嗜好を感じる学習機能、インターネットやクラウドにつながるネットワーク機能の4つの機能を搭載して

(アイデア部門 ②商業施設で活躍する PALRO)

順位	チーム名	タイトル
1位	S.K.	商業施設で活躍する PALRO
2位	サイエンス・ラボ	床子になった子供の遊びを富 士子センターの PALRO
3位	フロント	エレベーターコンシェルジュ
特別賞	チーム坂口	バルロ聴えキャラ

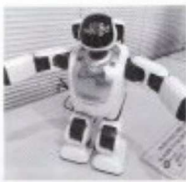


いる。2010年3月に第1弾として教育機関向けに販売を開始し、2012年6月からは老人ホームやデイサービスなどの高齢者福祉施設向けに販売を開始、現在は全国約150箇所の施設で利用されている。さがみロボット産業特区における、高齢者介護施設でも利用されている。前回のコンテストは、同じく富士ソフトが主催する「全日本ロボット相撲全国大会」の中で表彰式が行われたが、今回は、入選作品として選ばれた12団体が出席した表彰式が行われた。順位は当日発表ということもあり(本誌も審査員として参加していたが、参加者同様、当日のその場まで発表は伏せられていた)、緊張感が漂う中、千葉工業大学 常任理事 未来ロボット技術研究センターの古田貴之所長による「ロボット技術と未来社会」、インテル株式会社 取締役 兼副社長執行委員の宗像義恵氏による「ムーアの法則が可能にする新しい世界」というテーマで特別講演が行われた。

PALROによって発表が行われた受



プログラム部門1位を受賞した、株式会社金沢エンジニアリングシステムズの小林康博氏によるデモンストレーション。



(プログラム部門)

順位	チーム名	タイトル
1位	(株)金沢エンジニアリングシステムズ	意思伝達装置と無線でつながる PALRO
2位	Pairo で読み聞かせ開発チーム	バルロの紙芝居
3位	つらばし撃退サークル	PALRO とコグニサイズ
特別賞	新機械技術部	むかしなつかしい思い出を思い出出す時



賞作品は以下のとおり。1位には10万円と副賞として PALRO1 体が、特別賞には、小誌「ロボコンマガジン」1年間購読権が贈られた。プログラム部門1位を受賞した、株式会社金沢エンジニアリングシステムズの小林康博氏は、介護福祉関連のIT技術を使った見守りの製品などを開発する相談系の技術者として活躍している。今回、石川県リハビリテーションセンターや福祉用具販売代理店で PALRO についてヒアリングを行い、たくさんの人が使える/障がい者の人にも使える/一度使い始めたら長く使える/単純明快・使い勝手が良いものという観点で、「意思伝達装置と無線でつながる PALRO」を開発した。メール読上げ・ダンス・カレンダー読上げ・写真撮影の機能を外部装置である4つのボタンに割り振り、PALRO に話しかけるだけではなく、新たなインタフェースを提案していた。今回、より人間らしい機能や、実現の可能性が高いアイデアが多かった。次回はどうなアイデアが出てくるのか楽しみだ。

表彰式後の懇親会では入賞者と PALRO 開発スタッフ、審査員との技術交流がなされ、歌を歌いながら盛りを披露する PALRO の新作デモなどが行われた。